opusdei.org

モンセニョール・ フェルナンド・オカ リス神父との会見

オプス・デイの属人区長補佐 と総代理フェルナンド・オカ リス師は、故ハビエル・エ チェバリーアの帰天につい て、またその生涯について話 します

2016/12/14

モンセニョール・フェルナンド・オ カリス神父との会見

(2016年12月13日)

二つの相反する感情が交錯しています。しかし、根本的には同じです。 心から愛している人の死に直面すれば、信仰があっても、辛く悲しいものです。しかし、この悲しみは、落ち着きばかりか喜びとも両立し得るものです。

周知のように、パドレはカンプス・ ビオメディコ病院で治療を受けまし た。昨日ではなく、先週の月曜日で した。非常に弱っておられたからで す。医師は入院を勧めました。軽い 感染症だと考えたからで、事実そう でした。

一昨日から容態は悪化しはじめました。パドレはとても落ち着いていましたが、呼吸が困難になったのです。昨日の午後、パドレが病者の塗油の秘跡を希望されたので、私が授けました。夜に入るころ、たいへん

な状態とは分かっていましたが、差し迫ったこととは思いませんでした。というのも、パドレは質問に答えておられたからです。パドレは疲れておられ、呼吸も苦し状態が続いていました。

事前に打ち合わせていた通り、その 夜はビセンテ・デ・カストロ神父が パドレに付き添いました。ホセ・ア ンドレス神父と私はここに帰りまし た。大急ぎで夕食を終えた時、電話 が鳴り、危篤だとの知らせを受けた のです。大至急、病院に駆けつけま した。ビセンテ神父がゆるしを与え ていました。すでに夕方に、私も与 えていました。ビセンテ神父による と、非常に穏やかで平和な帰天だっ たということです。不幸中の幸いで した。というのも、呼吸困難が長引 くと非常に苦しむことがあるからで す。神様が、それを避けさせてくだ さったことを感謝しています。

しかも昨日はグァダルーペの聖母の 祝日でした。この祝日は、皆にとっ て、特にパドレにとって、思い出深 いものです。聖ホセマリアは、グァ ダルーペの聖母へ祈るためにメキシ コへ巡礼したのでした。昨日、病室 でパドレに尋ねました。部屋には グァダルーペの聖母のご絵があった ので良く見えるように持って来ま しょうかとパドレに尋ねました。す ると、「その必要はないよ。もう良 く見えないけれど、いつも心の中で 見つめていますからしとパドレは仰 いました。

パドレが長い間、二人の聖人、聖ホセマリアと福者アルバロと共に過ごしたことははっきり感じることがドレごきました。このことはパドレご自身に、大きな影響を与えたと思いまます。それは、パドレが徹底して忠忠を生きたオプス・デイの精神を創ま者から直接、受けたのでした。ま

た、その忠実は、単に同じことを繰り返すものとは考えていませんでした。忠実とは、決して変えてはならない土台と本質を維持する熱意ととは、変わり得ることには適応する。様々なことのでもあります。様々なこのでも、本質的な精神を守ることなのです。パドレは常にこのような忠実を生きていました。

パドレと過ごした日々において、い つも私が感動したことは、大きな心 で人々を愛していたことです。出会 う人たちととても親しく接していま した。思いがけなく出会いのときで も…。良く耳を傾け、尋ね、関心を 示していました。また、考えを伝 え、勧めを与える才能にあふれてお られました。聞くだけに終わらず相 手の心に入り込んでいました。心を 込めて、愛情を示しました。いつも 私の注意を引いたのは人と一緒にい る時に決して急がなかったことで す。

オプス・デイは教会に仕えるためにあります。全てにおいて教会に忠教会において教皇様に一致していました。で会の全てに一致していたのでものことでしたがしたがらそうではなる前からそうでしたがになる前からそうでは特になる人になる前からであるといる。全ての人にいました。

ご冥福を祈るためには、まずミサを 捧げ、祈ることですが、仕事と日常 生活を捧げることが最良の方法だと 思います。天国でパドレも望んでい ることでしょう。パドレが、より高 みに上るよう私たちが助けることに なるでしょう。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/fernando-ocariz-to-kaiwa/(2025/10/27)